

まいあみ 希望通信

vol.1

原子力災害を考える

いま考えよう 阿見町の未来、 私たちのふるさと。

3月11日の東日本大震災から間もなく9か月が経とうとしています。地震による大津波に襲われた福島第1原発は原子炉内の冷却機能を失い、重大な放射能汚染事故を引き起こしました。原発の安全神話はこの日を境にヒビ、崩れたのです。

いま阿見町は茨城県内1のホットスポット自認されています。放射能の除染対策は急務です。私放射能汚染からどのように自身や家族の身を守るのいないふるさとの環境や農業・漁業などを守るべきか真剣に考える必要があります。

● ホットスポット 阿見町

阿見町が県内一のホットスポット自治体になっているのは、福島第1原発3号機が2度目の燃料溶解を起こし、放射性物質が集まる放射性プルーム（放射性雲）が、3月21日夜～22日の未明にかけて降雨によって注いだことによると推定されています。この日の雨は、茨城沿岸から阿見上空を通り、柏市などの千葉県に南下していきました。

現在も高い放射性物質が測定されるのは、その時の雨によって半減期の長いセシウム134、137が蓄積しているということのようです。一般人が日常生活や医療目的のほか、やむを得ずさらされる放射線の限度は年間1ミリシーベルトと決めら



れています。確定的に影響が出るとされる年間100ミリシーベルトよりも低めに設定されています。シーベルトは放射線が人体に及ぼす影響を示す単位で、1ミリシーベルトは千マイクロシーベルト。日常生活（自然放射能）で一般人が年間さらされるのは1.5ミリシーベルト、胸部のエックス線CT検査は1回当たり6.0ミリシーベルトとされています。年間1ミリシーベルトを、測定器の単位である時間あたりの数値にすると0

114マイクロシーベルトとなります。したがって、0.114を上回る数値を示す場所は、大雑把に言えばホットスポットということになります。ちなみに、原発震災事故が発生する前の数値については、阿見町での測定値はありませんが、東海村周辺の固定局（高さ3.5メートルの数値）で、0.03～0.04程度の数値でした。

● やはり高い数値を 示す場所も

先日、阿見町内の数カ所で空間放射線量を測定する機会がありました。

大学に隣接するある事務所の外周の場所で、地表面の測定数値が6.665マイクロシーベルト/毎時を記録しました。年間にする58.385ミリシーベルトになります。この事務所には1日の多くの時間を過ごす可能性があります。この数値は必ず除染を必要とする数値です。

また、町内の運動施設では、8マイクロシーベルト/毎時を超える場所があり、町が表面土壌を除去する除染活動を行っています。この場所に24時間365日居続けるということはありませんが、低線量の放射性物質の長期被曝は体内への内部被曝も含めて健康への影響が指摘されています。

町の発表する測定数値は、自然放射能を考慮するとわずかに高い程度となっています。しかし、実際に測定器を使用している町民の方々の測定結果では比較的高い数値が出ているのです。

《裏面に続きます》

郵便はがき

3001152

恐れ入りますが
50円切手をお貼りください

阿見町荒川本郷1338-15 C-2

みんなの党 阿見町第一支部

海野 隆 事務所宛

ホームページは「海野隆 阿見町」で検索して下さい。どんなことでも結構です。福祉や教育など町に関するご意見をお寄せ下さい。裏面に自由にお書き下さい。お返事を差し上げます。

お名前

ご住所

電話

E-mail

※ご記入いただいた個人情報は当事務所の活動目的以外には一切使用いたしません。

生まれと学校

- ・1953年 那珂市生まれ
- ・水戸第一高等学校、立命館大学産業社会学部卒業

これまでの主な仕事

- ・労働金庫職員、帝国データバンク社員、医療法人小堀医院事務長、日本検査キューエイ（JICQA）環境主任審査員・品質審査員
- ・昭和62年から平成15年まで断続的に自治体議員で活動
- ・平成22年4月～平成23年1月まで阿見町参与。

現在の仕事

- ・環境/品質ISO認証取得及び内部監査要員養成コンサルタント
- ・弁護士法人フェニックス/フェニックスクラブ事務局
- ・株式会社第一総合研究所客員研究員

好きな言葉：人間万事塞翁が馬（じんかん ばんじ さいおうがうま）
家族：娘と二人暮らし。

海野隆 プロフィール

